

## 2025年度認定審査サマリーレポート

JABEE の認定・審査は、正会員 55 専門学協会の協力を得て、認定分野ごとに置かれた 16 の分野別審査委員会および JABEE の認定・審査調整委員会による審議・調整に基づき実施されています。プログラム（本レポート本文末尾の注参照）の審査は、各分野別審査委員会から推薦され、認定・審査調整委員会が承認した審査チームによって行われます。その審査結果は、分野別審査委員会における分野としての審議・調整の後、認定・審査調整委員会において全体の審議・調整を行い、最終審査報告書としてまとめられます。最終審査報告書は認定会議で審議・決定した後、理事会の承認により確定し、認定可否の結果とともに申請プログラムに送付されます。

2025 年度は、2024 年度申請プログラムのうち 2025 年度末に審査を完了した認定継続審査および中間審査、ならびに 2025 年度のすべての申請プログラムの審査を実施し、50 件のプログラムを認定しました。

### 1. 2024 年度／2025 年度認定審査結果

#### (1) 審査方針および結果概要

2020 年度より暫定的に適用してきた新型コロナウイルス感染症対応の審査スケジュールおよび審査手順は、2024 年度に認定申請されたプログラムの審査までで終了し、2025 年度末に審査が完了する「2024 年度後期審査」が、上記の暫定適用スケジュールおよび審査手順に従った最後の審査となりました。

2025 年度に認定申請されたすべてのプログラムについては、2025 年度内に審査が完了するコロナ禍前の通常スケジュールが適用されました。また、2020 年度以降の審査の方法と規則に関して暫定的に適用してきた「審査のガイドライン」は廃止し、認定・審査は 2025 年度適用の「認定・審査の手順と方法」および「審査の手引き」に従って実施しました。実地審査については、コロナ禍により初めて採用した Web 会議を使用した遠隔調査と、絞った人数で現地を訪問する訪問調査を組合せて実施しました。

この方針に基づき審査を実施した結果、2024 年度に認定申請されたプログラムの 34 件、および、2025 年度に認定申請されたプログラムの 16 件、合計 50 件のプログラムが認定されました。認定されたプログラムのうち、同一教育機関の複数プログラムに対して行う一斉審査を実施したのは、4 教育機関の 10 件のプログラムでした。

2025年度に認定されたプログラムの審査は130名の審査員によって行われました。また、25名の審査員候補者が、審査研修員として審査に参加しました。審査員と審査研修員の合計155名のうち産業界の経験者は71名（46%）でした。

2001年度の認定事業開始から2025年度までの認定プログラムの累計は、海外のプログラムを除き175教育機関の529プログラムとなりました（図1、表1）。2025年度時点での認定プログラム数は245プログラム、認定プログラム教育機関数は116教育機関、そのうち53（46%）の教育機関では複数のプログラムが認定されています。また、認定プログラムの修了生は累計で約41万人に達しています。

一方、認定継続の辞退による認定プログラムの減少は、2025年度も同様に続いています（図2、表1、表2）。今後も認定を継続していただくための対策を引き続き検討し、実施していきます。

なお、2026年度以降の認定審査申請プログラムについては、（2）項に記載した一斉審査調整対象プログラムを除き、申請された年度内に審査が完了する通常のスケジュールで審査を行います。また、2025年度と同様に遠隔調査と訪問調査を組合せた実地審査を実施します。

## （2） 同一教育機関の複数プログラムに対する特別措置

2020年度から6年間、同一教育機関における複数プログラムの審査が2年連続する場合については、教育機関の希望に応じて、1年目に実施予定のプログラムの審査を1年延期し、2年目に実施予定の他のプログラムとともに2年目の年度に一斉審査として行う特別措置を実施しています。2025年度は、この措置が適用されたプログラムの審査はありませんでしたが、教育機関からの要望もあり、2026年度以降も特別措置を継続します。

## （3） 審査員研修と受審校向け研修会

2025年度に認定申請されたプログラムの審査実施に向けて、審査員を対象としたハイブリッド方式（対面・オンライン併用）による研修会が開催され、審査員、審査研修員、講師、事務局関係者など約50名が参加しました。

はじめに、審査員研修部会の主査より全体説明が行われた後、参加者はオンライン参加者を含め3グループに分かれ、模擬自己点検書を用いた模擬審査をグループワーク形式で約4時間半実施しました。その後、各グループによる模擬審査結果の発表、質疑応答、および講師による総評が行われました。

対面での研修会は2019年の一泊研修会以来の開催となりました。対面で参加した審査員は9名と予想よりは少なかったものの、講師や事務局職員との直接対話の機会ともなり、有意義な場となりました。

また、「審査員にとって読み易い自己点検書の作成」をテーマに受審校に向けた研修会を初めて開催し、63名が参加しました。終了後のアンケート等でも高評価であったため、来年度以降も継続して開催する予定です。

#### (4) 国立高等専門学校のカIS 認証評価と JABEE 審査方式の見直し

国立高等専門学校機構（以下「高専機構」という）は、日本工学教育協会の協力を得て、2022年度より国立高等専門学校（以下「国立高専」という）本科の教育の質を評価して認定する仕組み（国立高専教育国際標準：略称 KIS）の運用を開始しました。JABEE では、開始当初よりこの仕組みに対し継続的に認証評価を行っています。

2025年度も、前年度に引き続き KIS 認定に関する継続モニタリングを実施し、4つの国立高専で行われた KIS 評価および審議の各プロセスを視察しました。あわせて、KIS 認定組織である日本工学教育協会との意見交換を行い、評価の運用状況や改善の進捗を確認しました。その結果、KIS 認定の仕組みについては、評価プロセスの明確化や運用面での改善が着実に進められていることを確認しました。

一方、JABEE が認定を行う国立高専プログラムの審査においては、KIS 認定結果を活用することにより、受審校および審査員双方の審査負担を軽減することを目標としています。この目標を達成するためには、評価の考え方や判定方法に関する課題が残されていることから、高専機構本部や教育関係者の協力を得て課題の整理を行い、JABEE の認定・審査に活用するための条件や手順について検討を進めました。今後は、2026年度の試行に向けて、受審校を含む関係機関と連携し、仕組みの確立に向けた検討を継続していきます。

## 2. 国際関係

JABEEが加盟する各種国際教育協定について、以下のとおり対応を行いました。

### (1) 国際エンジニアリング連合とワシントン協定

国際エンジニアリング連合（IEA：International Engineering Alliance）およびワシントン協定の総会が2025年6月9日から13日にかけてメキシコのメリダで開催され、JABEEからは会長をはじめ5名が出席しました。

今回のワシントン協定総会において、JABEEの3回目の継続加盟審査の結果が審議され、6年の継続加盟延長が承認されました。新規加盟団体はなく、正加盟団体は25団体、暫定加盟団体は新規のケニアを含む7団体となりました。

2022年度より「技術士等の資格に関する特例」としてワシントン協定に加盟する他国の団体が認定した課程の修了者に対し、技術士法第31条の2第2項に基づく技術士等の資格に関する特例（第一次試験の免除）が適用されるようになりました。昨年度に引き続き、この要件を満たす3名の修了者からの申請があり「JABEEによるワシントン協定認定

プログラム修了の認定」を行いました。JABEE認定プログラム修了生と同等の技術士第一次試験免除措置が適用されます。

## (2) ソウル協定

情報系のソウル協定総会がIEA総会終了後の6月14日と15日に同じくメキシコのメリダで開催されました。JABEEからはソウル協定部会主査および委員1名が出席しました。今回の会議では、新規加盟および暫定加盟の申請がなかったため、加盟団体の数は昨年から変更はなく、正加盟団体は13団体、暫定加盟団体は3団体です。

また当該総会以降、ソウル協定事務局は現在の台湾IEETから昨年加盟したマレーシアMBOTに移管されることとなりました。

## (3) キャンベラ協定

建築設計・計画系のキャンベラ協定の総会が6月26日と27日に中国の上海で開催されました。JABEEからは、キャンベラ協定部会主査および委員1名が出席しました。今回の総会終了後から当該部会の前主査がキャンベラ協定議長に就任する事が承認されました。2025年にはJABEEに対する協定の継続加盟審査が実施され、2026年のオンライン中間会議にて審議投票される予定です。また、2027年の総会は東京で開催される予定です。

## (4) 海外の教育認定関係団体への対応

ワシントン協定への加盟を目指すタイの技術者教育認定団体関係者が来訪し、JABEEの審査を視察しました。また、当該協定への参加に興味を示すモンゴルにおいては、モンゴル工学系高等教育支援事業(M-JEED)を行っている特定非営利活動法人・アジア科学教育経済発展機構(Asia SEED)からの依頼を通じ、現地開催のシンポジウムでJABEE国際部顧問が国際的な認定の制度や運営に関する講演を行い、教育大臣との面談を含む関係者との意見交換を行いました。

## (5) 国際的プレゼンスの維持・強化

JABEEは、欧州を中心とする国際的な質保証の枠組みであるENAEへの参画を通し、国際連携の範囲を拡大することを計画しています。2025年度はENAE総会への参加、メンバー団体への訪問調査を経て、正会員申請を行いました。加入の可否はENAEの次回オンライン総会にて決定される予定です。

## 3. 広報活動

### (1) JABEE Web サイトの改修

JABEEのWebサイトについては、デザイン刷新による視認性向上および利用者別メニューの新設による利便性向上を目的として、改修の検討を行いました。特に、閲覧者が

目的の情報に容易に到達できるよう修正を重ね、予定通り 12 月 1 日に改修後の Web サイトを公開しました。今後も関係者からの意見を取り入れ、掲載情報の充実と分かりやすさの向上に向けた改善を継続していきます。

## (2) 新聞広告

JABEE の認知度向上を目的として、日本の代表的な産業経済紙である日刊工業新聞の紙面上で情報発信を行いました。具体的には、10 月 22 日付（発行部数約 38 万部）の紙面に、会長インタビュー記事および審査員公募に関する広告を掲載しました。

## (3) SNS による情報発信

2022 年より開始した X(旧 Twitter) 公式アカウントを通じた情報発信を継続し、2025 年度は年間 118 件の投稿を行いました。投稿記事は継続的に閲覧されており、フォロワー数は 239 名となっています。特に、大学や高等専門学校への訪問記事や、「JABEE とは」と題した連載記事に対する関心が高く、今後もより多くの方に興味を持っていただけるよう、有意義な情報を発信していきます。

## (4) JABEE パンフレットの更新

JABEE パンフレットの内容を更新し、最新情報を反映させるとともに、各種イベント等で配布しました。あわせて、技術士会関連イベントにおいてポスター展示を行い、JABEE の最新情報や地域情報を分かりやすくまとめたポスターを掲示しました。

このような活動は非常に有効であり、今後もさまざまな機会を活用し、広報活動の充実を図ります。

## (5) ワークショップおよびシンポジウム

日本工学教育協会との共催により、「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ」を 2 回開催しました。第 1 回は「生成 AI を活用した授業の可能性と実践入門」をテーマに 11 月 15 日に開催し、36 名が参加しました。第 2 回は「中教審答申から読み解く分野別認証の方向性」をテーマに 3 月 14 日に開催し、26 名が参加しました。

また、世界エンジニアリングデーに合わせ、JABEE シンポジウムを、2026 年 3 月 4 日にオンラインで開催しました。テーマは『工学教育に期待する教育成果とその質保証』、またサブタイトルは『高等教育機関の認証評価制度の刷新を踏まえた工学分野での議論喚起』とし、基調講演とディスカッションを実施しました。

## (6) 学協会、省庁、企業関係者等への広報活動

学協会および高専や大学などを訪問し、認定制度の最新動向や国内外における技術者教育認定の状況について説明するとともに、意見交換を行いました。また、賛助会員企業

を訪問し、JABEEの活動状況を報告するとともに、引き続き支援していただくよう依頼しました。2025年度は、65件の訪問を実施しました。

中央教育審議会答申「我が国の『知の総和』向上の未来像」を踏まえ、分野別認証評価の在り方に関する議論が進められる中、JABEEとしては本答申が事業運営に与える影響を注視しています。このため、文部科学省担当者とJABEE会長との意見交換を6回行い、制度運営に関する意見や要望などを伝えました。

#### 4. 認定プログラム修了者の技術士資格取得状況

JABEE認定プログラムの修了者（以下「修了者」という）は修習技術者（技術士第一次試験合格と同等）となります。修了者の修習技術者が、2008年度に技術士第二次試験に初めて合格し、技術士の資格を取得しました。それ以降、修了者の合格者は順調に増加しています。また、初期は修了者が若年であったため低かった合格率も年々向上し、2025年度の第二次試験の結果では、修了者以外の受験者の合格率とほぼ同等となっています（図3）。

2025年度の修了者の合格者数は624名となり、2024年度から25%の増加を示しました。一方で、受験者全体の合格者数も昨年度の2,395名から2,752名へと15%増加していますが、その伸び率と比較しても、JABEE修了者の増加は特に顕著であると言えます。また、全体の合格者に対する修了者の割合は23%となっており、昨年度の21%から増加しています。さらに年代別で見ると、修了者の合格者は20代の48%、30代の42%、40代の12%（40歳以上の修了者はまだ少数のため、合格者は多くありません）を占めています。合格者の平均年齢は全体で42.1歳であったのに対し、修了者は33.9歳でした。また、通常の大学卒業年齢で修習技術者となった後、技術士第二次試験を受験できる最年少（26歳）の合格者は全体で54名ですが、そのうちの30名（56%）は修了者でした。

以上のように、JABEEの認定が若い技術士を生み出すための推進力の1つとなることが分かります。

注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科やコースなどの総称です。

図1 認定プログラム数と修了生数の累計(海外プログラム除く)

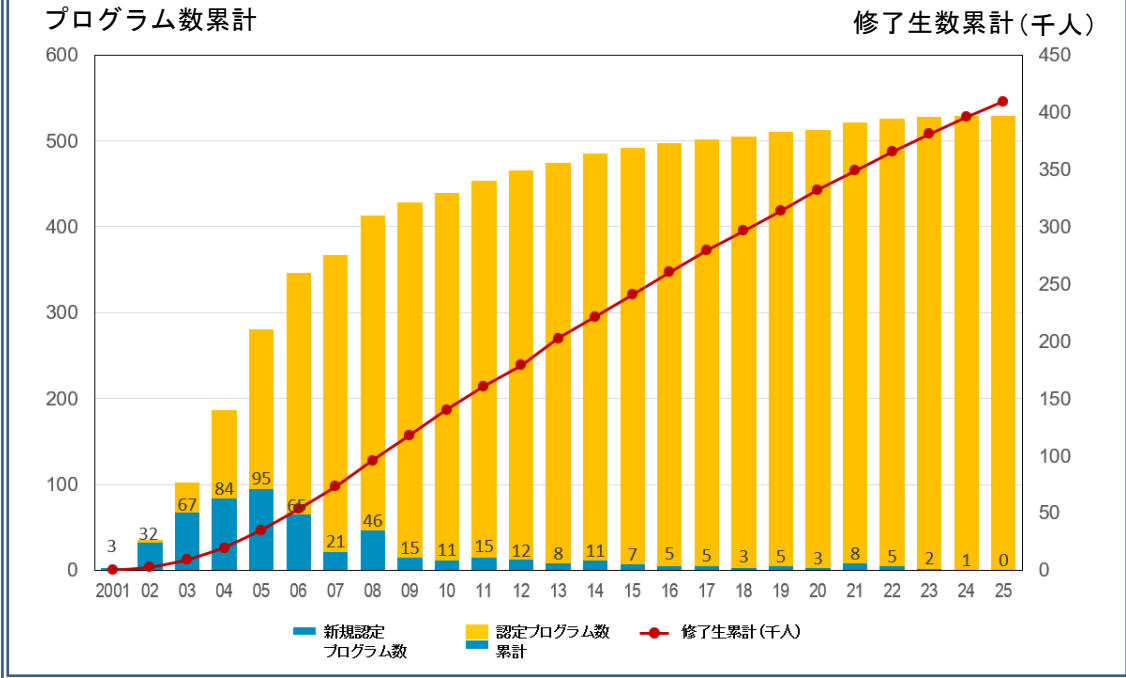


図2 認定中のプログラム数の推移(海外プログラム除く)

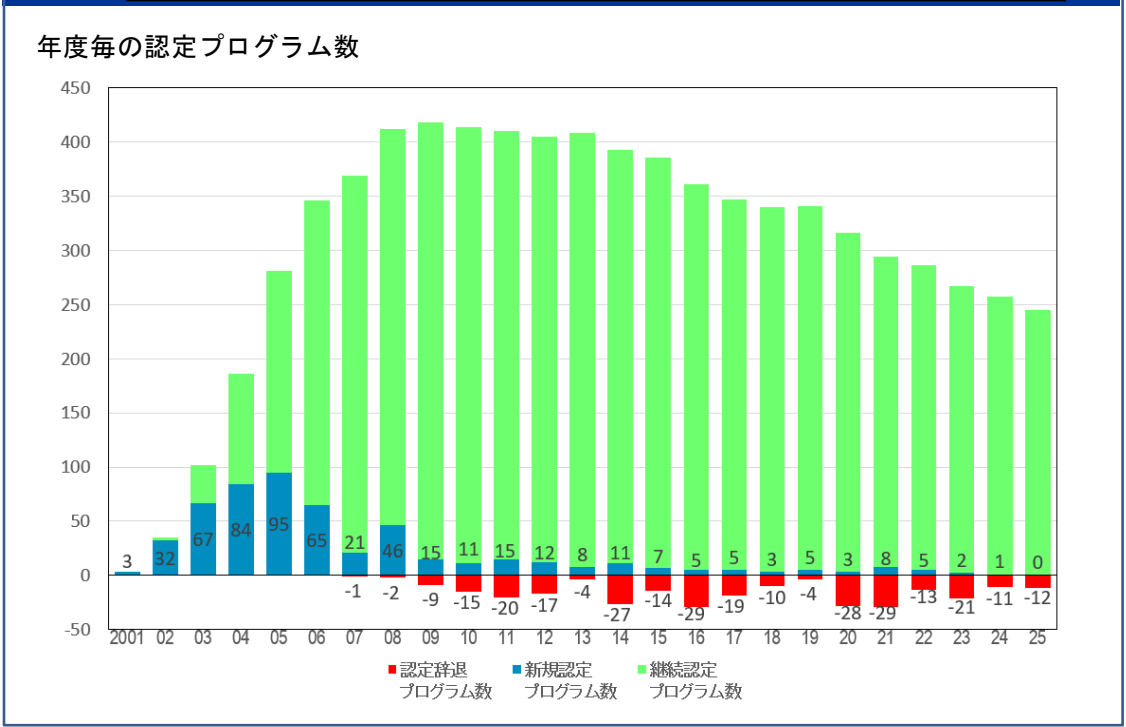
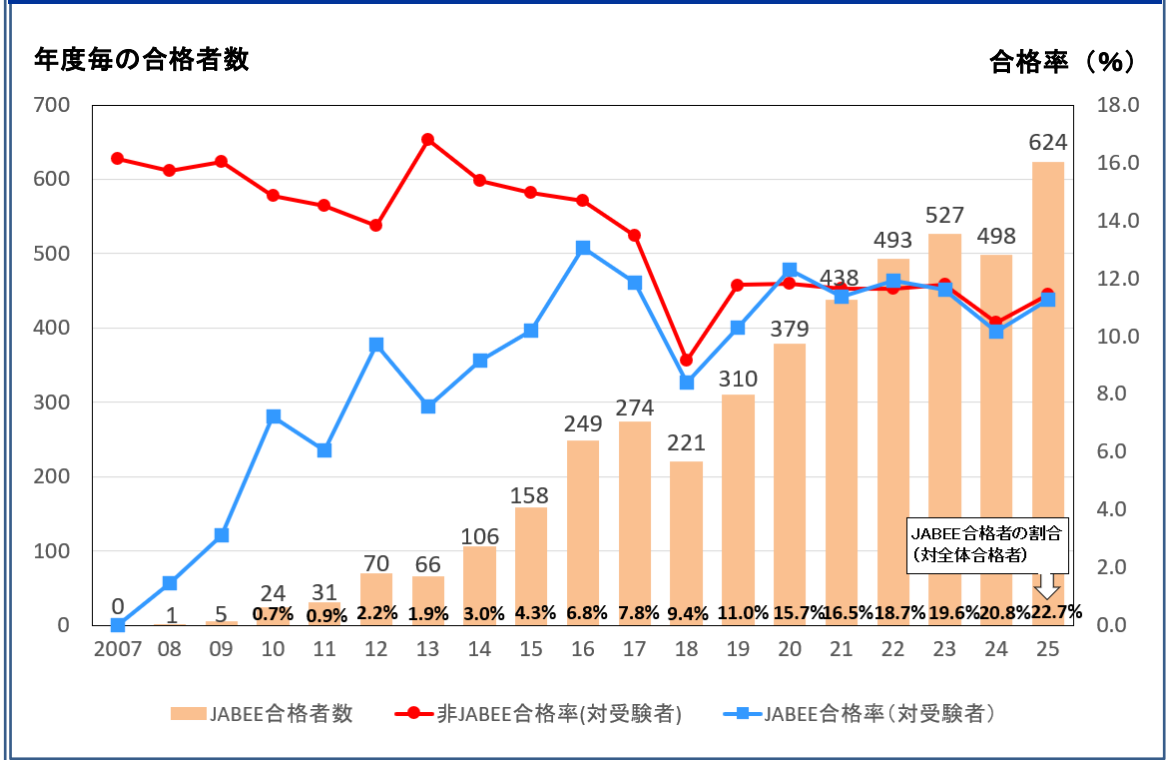


表1 教育機関種別認定プログラム数 [学士、修士、学士修士] 2001-2025 累計および 2025 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]		
教育機関種類	教育機関数	プログラム数
国立大学	54 (45)	245 (107)
公立大学	11 (6)	25 (9)
私立大学	56 (39)	171 (93)
高等専門学校(専攻科)	53 (25)	87 (35)
大学校	1 (1)	1 (1)
< 合計 >	175 (116)	529 (245)

表2 分野別認定プログラム数 [学士、修士、学士修士] 2001-2025 累計および 2025 年度時点(カッコ内) [海外のプログラムは除く]	
分野	2001-2025 累計(現在)
化学および化学関連分野／化学及び関連のエンジニアリング分野	55 (13)
機械および機械関連分野／機械及び関連の工学分野	87 (35)
材料および材料関連分野／材料及び関連の工学分野	15 (6)
地球・資源およびその関連分野／地球・資源及び関連の工学分野	12 (9)
情報および情報関連分野／情報専門系学士課程(GS、IS、IT・CSec、情報一般分野)	45 (15)
電気・電子・情報通信およびその関連分野／電子情報通信・コンピュータ及び関連の工学分野／電気・電子及び関連の工学分野	66 (24)
土木および土木関連分野／土木及び関連の工学分野	69 (54)
農業工学関連分野／農業工学及び関連のエンジニアリング分野	19 (13)
工学(融合複合・新領域) 関連分野／工学(融合複合・新領域) 及び関連のエンジニアリング分野	66 (25)
建築学および建築学関連分野／建築学・建築工学及び関連のエンジニアリング分野	47 (25)
建築系学士修士課程(建築設計・計画系分野)	
物理・応用物理学関連分野／物理・応用物理学及び関連のエンジニアリング分野	6 (4)
経営工学関連分野／経営工学及び関連のエンジニアリング分野	6 (2)
農学一般関連分野／農学一般及び関連のエンジニアリング分野	13 (11)
森林および森林関連分野／森林及び関連のエンジニアリング分野	5 (3)
環境工学およびその関連分野／環境工学及び関連のエンジニアリング分野	8 (2)
生物工学および生物工学関連分野／生物工学及び関連のエンジニアリング分野	10 (4)
総計	529 (245)

図3 技術士第二次試験合格者数／合格率の推移



- 注1：「JABEE合格者数」は、技術士第二次試験に合格したJABEE認定プログラム修了者の数を表す。  
 注2：「JABEE合格率」はJABEE認定プログラム修了者の技術士第二次試験の合格率（受験者中の合格者の割合）を表す。  
 注3：「非JABEE合格率」はJABEE認定プログラム修了者を除いた受験者の技術士第二次試験の合格率を表す。

以上